

令和元年度 第1回 桐生市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和元年12月9日(月) 午後3時30分～4時42分

2. 場 所 桐生市役所 3階 特別会議室

3. 出席者

【構成員】 桐生市長 荒木 恵司
桐生市教育委員会
教育長 柴崎 隆夫
教育長職務代理者 板橋 英之
委員 大澤 美智子
委員 新居 理恵
委員 高山 信廣

【事務局】 (市長部局)
総合政策部長 和佐田 直樹
企画課長 田島 規宏
企画担当係長 金子 貴征
企画課付技師 坂主 樹哉
(教育委員会事務局)
管理部長 西場 守
教育部長 前原 通宏
総務課長 原橋 貴史
生涯学習課長 藤川 恵子
スポーツ体育課長 新井 敏彦
学校教育課長 蜂須賀 直樹
総務課庶務係長 大澤 路代

【傍聴者】 0人

【報道機関】 2社

4. 議 題

- (1) 桐生市教育大綱について
- (2) 今後の重点的に講ずべき施策等について

5. 議事の大要

(開始：午後 3 時 3 0 分)

○開会 〈司会：企画課長〉

○あいさつ

桐生市長 荒木 恵司

皆様こんにちは。

本日はご多用中にも関わらず「令和元年度 第 1 回 桐生市総合教育会議」にお集まりいただき、ありがとうございます。

平素より皆様方には、それぞれのお立場の中で、桐生市の教育行政の各般にわたりお力添えをいただいていることに心から厚く感謝を申し上げます。

今、少子化が進んでいる中で、子供達誰一人の脱落者も無く、全ての子供達が心豊かに、そして健やかに成長して欲しいということは、全ての人共通の願いであると思います。今日お集まりいただいている委員の皆様方は、それぞれの教育の分野の中で色々と経験を積み、様々な体験を見てきており、まさに現場の第一線で活躍してきている方々ばかりです。そうした委員の皆さんの意見を集約し、しっかりと教育行政に生かしていくことが、子供達の健全育成に繋がっていくと思います。

今日は、教育大綱等の議題がありますが、私としては皆様の色々なご意見を拝聴させていただく中で、これからの桐生市の教育に取り組んでいきたいと思っています。忌憚のないご意見をいただければ有難いと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○協議・調整事項 〈議長：荒木市長〉

(1) 桐生市教育大綱について

発言者	発言内容
事務局	(資料「桐生市教育大綱改定案」について説明。) ・平成 28 年に策定した桐生市教育大綱の計画期間が今年度で終了するため、次期教育大綱の策定に向けて見直しが必要。 ・しかし、教育大綱の策定には、民を代表する市長と教育委員会が総合教育会議で十分に協議、調整を尽くすことが求められている。 ・こうしたことから、市長は、次期教育大綱の策定にあたっては、令和 2 年度を初年度とする「桐生市第六次総合計画」の策定を踏まえた上で、十分な期間を設けて、市長と教育委員会がしっかりと議論を重ね、新たな教育大綱の策定を進めることを必要としている。

発 言 者	発 言 内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ついては、現在の教育大綱の期間を1年間延長し、令和2年度を見直し期間として、次期教育大綱を策定させていただきたい。 ・ 今回の教育大綱改定案の変更部分は、計画の見直し期間を令和2年度に変更するのみで、内容に関する変更は無い。
市長	<p>教育総務課長の説明のとおりで、冒頭のご挨拶でも説明させていただきましたが、委員の皆様のご意見や考えが大綱に反映されるべきだと私自身が思いまして、今日の会議でいきなり大綱案を示して承認される形ですと、どんな形で委員の皆様の考えが大綱に反映されたのかが見えませんので、敢えて期間を1年延長させていただいて、その間、しっかりと議論、意見交換をさせていただく中で大綱をつくりあげていきたいというのが、今回の趣旨です。</p> <p>当然、これからの会議の中では大綱に対する様々なご意見をいただきながら、しっかりとつくりあげていって、尚且つ、それに基づく実施計画、個別計画といったものを具体的な施策の中で反映させていただき、大綱が実のあるものになるようにしていければと考えておりますので、補足をさせていただきます。</p> <p>それでは教育委員の皆様から質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。</p>
教育長	<p>教育大綱は桐生市と教育委員会を結ぶ非常に大事なもので、ましてや市長が変わられたということから、そのお考えも前の大綱の通りというわけにはいきません。ここで一旦時間を取って、しっかりと練って、教育委員の皆さんからもご意見をいただきながら、教育大綱を策定した方が良いと思います。</p> <p>できれば、一年と言わず、できるだけ早く進めていただいて、年度途中での大綱の策定でも構わないです。そういう形で私も進んでいければ良いと考えています。</p>
市長	<p>ありがとうございます。他にはございますか。よろしいですか。</p> <p>それでは、教育大綱につきましては、事務局案のとおり手続きを進めさせていただきますと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>

結果：事務局案の「現在の桐生市教育大綱の期間を1年間延長して令和2年度までとし令和2年度を見直し期間として、次期教育大綱を策定する」ことについて承認。

(2) 今後の重点的に講ずべき施策等について

発言者	発言内容
事務局	<p>(資料「桐生市教育大綱に関わる令和2年度主要事業計画案」について説明。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算要求中のため、事業計画“案”としてご了承いただきたい。 ・ 令和2年度主要事業計画案については、「桐生を好きな子供の育成と生涯学習の推進」を教育に関する大綱の柱として、平成27年度に策定された桐生市教育大綱に基づき、6つの基本大綱(①ふるさと桐生を再認識する事業の推進、②確かな学力と健康な体を育む事業の推進、③人を思いやる心やものを大切にする心を育む事業の推進、④自然・歴史・文化・人材など地域の教育資源を活かした事業の推進、⑤生涯学習の推進で心豊かな市民性の醸成と育成、⑥「スポーツライフ」を送るための環境づくり)毎に事業を分類している。 ・ 6つの基本大綱毎に分類した事業案について、主なものの概要を説明。
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>現行の教育大綱が一年延長されるということで、それに基づく令和2年度の主要事業計画になりますので、まず共通認識として確認させていただきます。</p> <p>それでは、事務局より説明のありました件につきまして、ご意見やご要望等がございましたらお願いいたします。</p>
板橋委員	<p>地域の教育資源を活かした事業のところで「サイエンスドクター事業」の説明がありましたが、これは桐生ならではの桐生にしかできない教育で、これが桐生の売りになって、例えば子育てをする人が桐生に住むことを選択してくれる理由の一つになると思います。</p> <p>この事業ではサイエンスドクターを全中学校に1～2名配置していますが、指導を受けた中学生が科学の甲子園ジュニアの全国大会に2回出場するなど、かなり成果が出ているので、もっと拡充するべきだと思います。群馬大学工学部には学生が3,000人くらいいますが、そのうちサイエンスドクターに関わっているのは十数名ですので、まだほとんどの学生は桐生市の教育に関わっていません。</p> <p>学校教育に限らず社会教育も含めて、もっと学生がまちに出て子供の教育に関与するという部分に予算を付けて事業を進めて行けば、それが桐生の売りになると思います。</p> <p>先ほど、桐生から世界へということで、中学生の海外派遣事業に予算を付けるという説明もありましたが、予算がかかります。例えば、今度12月12日に「群馬大学工学部外国人留学生との懇談会」という催しもありますが、工学部には留学生が百数十名いますので、一か所に留学生を</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>集めて、その場所に小中学生が行くだけでも、桐生市にいながら海外を体験するようなことも可能ですので、留学生を使った事業などでも群馬大学理工学部と連携してどんどん実施していただければと思っています。</p> <p>キャッチフレーズとしては、例えば「桐生市に住めば誰でも群馬大学理工学部に入れる」、すなわち、それくらいの教育は桐生市に住めば誰でも身につくのだということに進んで行ければ良いと思います。</p>
市長	<p>サイエンスドクター事業については拡充を考えています。小中学生への教育を更に充実させるためにはどうしたら良いのかということを考えて行かなければならないと思います。</p> <p>海外派遣事業につきましても、今年派遣された中学生の皆さんの意見を聴きましたが、非常に良い事業だと思います。群馬大学の留学生の皆様力を借りて、子供達が言語をはじめ、文化、慣習なども感じ取ってもらえることができれば、それは桐生独自の事業になると思います。</p> <p>私としても、板橋委員のご提案の通り拡充していきたいと考えていますので、アドバイス等いただければと思います。ありがとうございます。</p>
板橋委員	<p>西小学校の開校記念日で講演に行ったときに、幼稚園のプログラミング教室もサイエンスドクター事業で実施していますが、それを見学した小学校一年生が触りたくて仕方がない状態だったという話を聞きました。小学校低学年でも十分にできると思いますので、そういうところにもどんどん広げてもらえれば、桐生に住めば、子供は皆プログラミングが分かるようになるということになると思いますので、ぜひお願いします。</p>
市長	<p>ぜひ連携して進めて行きたいと思います。よろしくお願いします。</p>
学校教育課長	<p>サイエンスドクター事業につきましては、平成 25 年度に 3 校の中学校に派遣する試行的な実施から始まりました。中学生への理科学習の支援から始まり、幼稚園のプログラミングへも拡充され、それから後は小学生を対象にした学習会「サイエンスコミュニティ」も計画しておりますし、中身は年々充実してきていると思います。</p> <p>特に今年は、中学生の理科発表会の優秀者表彰を群馬大学工学部同窓記念会館で行わせていただきました。その後、板橋先生の研究室を見学させていただき、中学生にとっては大変貴重な経験になったと思います。</p> <p>また、学生に指導に来ていただくだけでは無く、中学生が理工学部に向いて「サイエンスフェスタ」なども実施させていただいていますが、大学にお邪魔させていただくような機会も含めて、中身を充実させていきたいと考えております。</p>
教育長	<p>群馬大学という凄い教育機関がせつかくあるので、これを大いに活用するという事は、桐生の子供達にとっては大切なことだと思います。</p> <p>サイエンスドクターは学校教育ということで、今群馬大学にお世話に</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>なっていて、これももちろん充実させていきたいと考えています。</p> <p>しかし、もう一点申し上げたいのは、学校教育だけでは限界があるということです。やはり、社会教育の面でも、子供達が学習・体験する機会が必要で、学校外でも群馬大学を活用する、また時間的にも夏季休暇とか学校外の時間、いわゆる社会教育の時間に群馬大学理工学部の学生さん、聞くところによると3,000人もいるそうですから、この学生さんたちを活用させていただければ、非常に有効なものができると思います。</p> <p>今やるべきは二つ、一つは学校教育の中でサイエンスドクターを充実させていくこと、もう一つは社会教育でも群馬大学との連携を掲げていくこと。社会教育では、学校教育で得た知識を基にした体験、また学校で得た知識を発展させることが、非常に有効だと思っています。ただ、それには指導者やコーディネーターが必要です。そういう意味では、社会教育主事をもう少し増やして、社会教育の時間を増やせる状況にしていければと考えています。事務局の説明で出てきた「未来創生塾」もその類に入る、非常に大切なものだと思います。</p> <p>これからは、学校教育と社会教育の2本立てで、しかも地域の持つ教育力をフル活用していきたいと考えています。詳しいことは教育委員会内で相談していきたいと思っています。</p>
板橋委員	<p>今の学生はまじめで、人の役に立ちたいと強く思っています。教育に関われるとなれば、彼らは喜んでやってくれるし、自分の伝えたいことが伝わらなかったとき、すごく勉強になります。それは大学にとっても望ましいことです。</p>
市長	<p>行政サイドも遠慮しないで、どんどんお願いしたり頼めたりする良い関係ができればと思っています。</p>
新居委員	<p>放課後子供教室に関連する話が教育長から出ましたが、私もそのことについて伺いたいです。</p> <p>昨年は2校で実施し、今年は3校で新たにスタートして、着実に広がっていると思います。地域の方々のご尽力や、生涯学習課が一生懸命やってくださっているのが有り難いと思って様子を拝見していますが、本当は市内全地域で実施して欲しいというのが私の思いです。</p> <p>教育長からお話があったように、社会教育という観点から見ても、すごく良い場所になると思います。各小学校に放課後児童クラブがありますが、それとは全然違います。放課後児童クラブは、共働きで両親の帰りが遅い子供達の居場所として、申し込んで登録して行く場所なのですが、放課後子供教室は申込不要でどなたでも参加できるのが良いところです。</p> <p>保護者としても、学校の先生には先生が本来やるべきことをしっかりとやって欲しいです。色々なことを学校でやる状況になってしまっていて、</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>本来先生がやるべき仕事以外のことがすごく多いのだろうということが、保護者から見ても感じ取れますので、教育長が話したように社会教育に任せられる部分の受け皿をしっかりと作っていった方が良いと思います。</p> <p>先ほど社会教育主事、コーディネーターの話もありましたが、やはり、それぞれの地域にあるということは、それぞれの地域の人達もそこに入って子供と接していくので、子供を通して地域の人が繋がれます。災害時にも地域の繋がりは大事になってきますので、各地域で地域の方がそこに入っていくというのが重要だと思います。</p> <p>先ほど未来創生塾の話もありましたが、初めて放課後子供教室の話が出たときに、目指すところは、未来創生塾のエッセンスを各地域に広げていった形だと思いました。未来創生塾は定員があるので、なかなか参加が難しいところがありますが、丸々同じことをやらなくても、エッセンスを引き継いで、社会教育の発展的なものが各地域で、その地域の実情に応じてコーディネーターが調整して、教えてくれる人もいて、各子供達がそれぞれ体験して発表できる場があったら、もっと良くなるとずっと思っていましたので、ぜひ拡充していただきたいです。</p>
市長	<p>全く同感です。概ねの方向性とする、1年間に3校ずつ増やしていく計画は既にできています。最終的には全学校で実施する計画は立てておりますので、実現していければと思います。</p> <p>行政区で言うと、今は22区ありますが、区毎に環境は異なりますので、地域の特色を出すことは効果的だと思います。地域コーディネーターについても、その地域に根差した方が子供達に引き継いでいくのは大事なことだと思います。地域独自のものを放課後子供教室の中に組み入れていくと、それによっても桐生独自のものが生まれてくると思います。</p> <p>少し話がずれますが、この間教育部長が黒保根の小中一貫校の説明を地域の方にしましたが、黒保根地区は非常に個性のある地域でして、わたらせ渓谷鐵道が通っていて、水沼駅には温泉があつて、花見ヶ原や利平茶屋のキャンプ場があつて、水源村を宣言していて水の奇麗なところとか、新井領一郎さんを輩出していたりとか、西町インターナショナルスクールと姉妹校の締結を行って国際教育に取り組んでいたりと、凄い地域です。学区を取っ払って、全国から人を呼べるような特色ある教育をしようという教育長と部長の考えに非常に賛同しまして、桐生独自の部分を黒保根色も出しながら出来ればと思います。</p> <p>話がずれましたが、そういったことも含めて、放課後子供教室に関しては地域の特色を出しながら、また地域の方々とも関わりながら、ご年配の方々もそこに入りながら、地域ぐるみで、郷土愛と自治意識を持っている方々で地域が成り立ってくれば、必ずまちは良くなりますので、ぜひ進め</p>

発 言 者	発 言 内 容
	て行きたいと思います。
教育長	<p>形としてはそれぞれの地域に放課後子供教室を設置することを考えていますが、そこには人が必要です。現在5か所に開設していますが、既に生涯学習課が手一杯の状況です。</p> <p>また、これはすぐの話ではありませんが、将来的には、先ほど私が申し上げたように、社会教育の部分で子供を育てるのは非常に大切だと思いますので、社会教育主事を増やしたいです。教員に限らず市の職員でも社会教育主事の資格を取ることが可能で、そういう講習会があります。職員の育成をしながら、社会教育主事を増やして、組織を充実させていく。また、それをまとめる人材も必要です。まとめ役、コーディネーター役を育成していければと考えています。急にというのはなかなか難しいですが。</p>
新居委員	<p>ぜひそれを進めていただきたいと思います。今、コーディネーターを引き受けてくださっている方々は、その地域の方です。それだと地域の中だけで終わってしまうので、地域の特色が入るのももちろん大事ですが、桐生全体を見られるようなもう少し広い視点を持ってコーディネートしてくれる人が側にいてくれると、すごく広がるし心強いと思いますので、進めていただけたら有り難いです。</p>
板橋委員	<p>未来創生塾にコーディネーターの育成ということでお願いをして、未来創生塾の中で色々なことを学ばせていただいて、そこで得たノウハウを地域に持ち帰って生かす形があっても良いかも知れないです。</p>
教育長	<p>そういった方法ややり方は教育委員会で検討させていただいてから、市長に予算要求も含めて提案していきたいと思います。</p>
市長	<p>教育委員会もちろんそうですが、市長部局も職員のあり方が根本的に変わってくると思います。従来通りの市民要望に沿った、例えば道路に穴が開いているからすぐに来て欲しいとか、それはもちろん大事ですが、そういったものをコーディネートする役割が職員にこれから求められてくる気がします。どんどん削減されて職員の人数が少なくなっていく中で、市民サービスが行き届かなくなってくる場所もありますので、そういった部分では教育委員会も市長部局も含めて、あり方自体を考えて行かなければならないと思います。</p>
大澤委員	<p>私がすごく危惧しているのは、少子化が更に加速していこうという事です。まず1番に、「ふるさと桐生を再認識する事業の推進」のところに「桐生が育ててきた幼児教育の更なる充実を図ります」、「学ぶ環境の更なる充実を図ります」と書いてありますが、そんな悠長なことを言っている場合ではないと思います。適正配置に向けてどんどんプロジェクトを組んで、やっていかなければならないのだろうと強く思っています。</p> <p>本当に大きな事業ですから、何年あるいは何十年かかるかも分かりませ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>んが、児童の数を見ると、今年度の小学生は 4,555 人、中学生は 2,395 人、幼稚園に至っては 7 園で 167 人です。私もたまに幼稚園に行くことがあります、昔の 1 クラス分の人数が今の 1 園の人数になっています。20 人以下の園もいくつかあります。これは最早幼稚園の集団教育では無いと何年も思っています。</p> <p>思い切って、少子化に向けての適正配置はどうしたら良いのかを、水面下では始まっているかもしれないですが、本当に本格的に進めて行く必要があると思います。例えば、幼稚園については、公立幼稚園は桐生の財産ですから、無くしてしまったら困ると思います。ただ 7 園は要らないだろうと思います。ではどうしたら良いのかという議論をすぐにでも始めて行く必要があると思います。</p> <p>小学校も単学級のところがあります。子供達の教育、集団の学習とか、そういうところに大変支障がありますし、教職員の適正配置にも大変な支障が出てきますので、対策を思い切って始めていただきたいと思います。</p> <p>保育園もやはり少子化で、来年度に廃園予定のところもあるそうです。それを聞いて、もし公立幼稚園もなし崩し的に 1 園ずつ減っていったら少し寂しいと思いました。</p> <p>まず幼稚園、小学校から考えていくべきなのだろうと思います。</p>
市長	<p>教育長とお話したこともあります、やはり幼稚園、小学校の適正配置には取り組まなければならないと思っています。園児数が 1 桁と少ないクラスも随分と増えてきています。幼保一体化とか、認定こども園みたいな形にするとか、あとは、公立幼稚園を最低限だけ残して統廃合させる必要もありますし、小学校も同様に今から取り組む必要があると思います。</p> <p>中学校も統合になってから、既に若干の陰りが出ているところもありますので、そういったところにも取り組まなければならないと思います。</p> <p>高校については群馬県教育委員会の主導で桐生高校と桐生女子高校、そして桐生西高校と桐生南高校の統合が進んで、令和 3 年度からスタートすることになっていますので、そういった部分も含めて、幼稚園と保育園については教育委員会と保健福祉部が連携しながら進めなければならないと思いますし、小学校と中学校に関してもやはり同様に進める必要があります。単学級による弊害とか、やりたい部活動ができなかったりとか、そのことによって先生の負担が増えてきたりとか、色々なデメリットがあるので、検討していかなければならないと思っています。</p>
教育長	<p>教育委員会の中では、正式に議題として話をしているわけではありませんが、やはり皆同様の思いを持っています。</p> <p>先日、市長と、適正配置を進める必要があるという話はしましたが、このことはまた教育委員会の中で、どういう形でやっていくのかということ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>を事務局で詰めまして、案を作って行ければと思います。</p> <p>先ほど大澤委員が言ったように、悠長なことは言ってられません。校舎は老朽化するし、児童数も減っていく中で、先生の数も減ってしまいます。黒保根地区では小中学校を義務教育学校にするということで早急に進めているところですが、旧桐生市内の学校でもすぐにでも取り組まなければならないです。しかしそんなに早急にはできませんので、少し研究しながらやっていかなければならないと思っています。</p> <p>今、小学生は4,500人、中学生は2,300人いますが、この人数で1学年3クラスか4クラスの適正規模の学校を作っていこうとすると、今、小中学校は27校ありますが、半分に減らしてもまだ多いのが現状です。</p> <p>富岡市は大胆な計画を出していて、妙義地区に学校が無くなるということで、これから地域住民に説明をするのが大変という話を聞きました。</p> <p>やはり学校への地域の関心は高いので、早急にというわけにはいきませんが、でも早急に検討しなければなりません。教育委員会内である程度の考え方をまとめて、委員の皆さんの意見も聴いて事務局で検討しながら、そして市長へ相談にいければと思っています。</p>
市長	<p>これはもうやり方の問題だと思います。この間も、黒保根の地域審議会でも義務教育学校の話をしたら、そんな話は一切知らないと言われました。これから提案を示してこんな形でいきますというのを出示ただけで、私達は聞いていないという話になってしまいます。学校に対する地域の方々の思い入れはやはり強いので、一方的に行政案、教育委員会案という形で出すのではなく、事前にある程度色々な部分でコンセンサスを得ながら進めて行かないと、それこそ感情論で終わってしまうケースも考えられますので、慎重にやっていく必要はあると思います。</p>
教育長	<p>可哀相なのは子供達で、教育の質を維持できるか、向上できるかという問題になるので、ただ単に学校を適正配置にするとか、そういう問題だけではないと思います。そこを理解してもらえるような説明の仕方をしていく必要があります。</p>
市長	<p>そのとおりです。慎重にというのは、長くという意味ではなく、適切な方法でという意味です。</p> <p>このままだと団体スポーツも成り立たなくなっていくので、そういうことも考えなければならないです。私の娘はソフトボール部に入りたかったのですが、学校に無いので、野球部に入って男の子と一緒にやっていた。希望のスポーツができるような環境づくりも考えてあげられればと思います。</p>
教育長	<p>この件はまた市長に相談させていただきます。</p>
高山委員	<p>先日の台風で、足利、佐野の被害が非常に大きかったです。桐生のこと</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>を振り返ってみますと、もう少しで桐生川が溢れそうになったという話も聞いております。私は桐生川の隣の清流中学校に勤務したことがあります。学校が避難場所になっているところが多いと思います。しかし場合によっては、ハザードマップ等を見ると、避難場所に水害の危険があるという話も伺っています。児童・生徒の安全を考えたときに、施設についても考えておかなければならない気がします。</p> <p>先ほどは少子化の関係で適正配置の話が出ましたが、児童・生徒の安全のことも含めて見直しをして、例えば、ある程度の災害が来ても対応できるような校舎を考えると、地域のどこに校舎を置けば良いのかとか、少子化で子供の数が少なくなれば、余計に子供を大切にしなければならないわけですから、災害にあわない様な、災害があっても少ない被害で済むような施設・設備を考えていただけたらと思います。</p>
市長	<p>清流中は今回の台風で避難所にはなりませんでしたが、桐生川が危なくなった時に、東小と南小と境野小に避難所を開設しました。避難勧告は桐生市始まって以来初めてということで、約7万人が避難対象で、2,000人の方に避難していただきましたが、多くの課題が浮き彫りになりました。</p> <p>担当の安全安心課と消防本部がアンケート調査を行う中で、桐生市地域防災計画の大幅な見直しを行うということで話が進んでいます。当然その中では避難所のことも考えなければなりませんし、水害ハザードマップでは浸水が想定される避難所もあります。では、実際に水害が発生した時にどうするのかという問題もありますし、新たな避難場所も選ばなくてははいけませんし、防災の連携という部分の中では、例えば相生地区ではみどり市と連携して、みどり市の避難所の方が近ければそちらに避難させていただくことも考えられますし、様々なケースを想定しながら計画の見直しをしていくつもりでおります。</p> <p>今高山委員からお話いただいたことは、私から担当に伝えますので、よろしく願いいたします。</p> <p>あとは、防災教育の部分も非常に大事です。自らの命は自ら守るという、基本的な自助の大切さを子供達に教える防災教育は必要だと思います。そういう部分では片田教授に防災アドバイザーになっていただいています。最近では金井教授にもお力添えいただいていますので、群馬大学の知的財産を桐生市の子供達のためにしっかり生かせるように、防災教育の部分も検討していきたいと思っております。</p>
高山委員	<p>例えば、学校で避難訓練などの防災教育をしていますよね。しかし実際の場面を考えると、学校外の時間で災害に遭うケースも想定され、そういった時には隣近所などと一緒に避難するなど、地域の中で行動が起こるので、学校でやった防災訓練のように、机の下に隠れるとか校庭に逃げる</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>とか、そのとおりには行かないと思います。</p> <p>先ほど社会教育の話も出ていましたので、ぜひ社会教育の中で、隣近所で助け合って避難するようなことも扱えれば良いと思います。</p>
市長	<p>今、全部の地域ではありませんが、自主防災組織が桐生市の中にできております。ただその組織の規模は区単位が良いのか、自治会単位が良いのか、あるいはもっと小さい単位が良いのかということは、地域によって違うと思いますので、効果的に機能するためには、組織の大きさも地域によってバラバラで良いのだと思います。その部分では民生委員・児童委員の方々をはじめ、消防団の方々、郵便局や配達員の方々の協力もいただく必要があると思います。支援を必要としている弱者に対して、相対である人は私が支援するというような関係性ができれば、必ず逃げてもらえるような体制ができると思います。</p> <p>今回の台風で教訓になったのが、区とか民生委員の方々に連絡がなかなか行き届かなかったことです。あの人に対しては私とか、そういう関係ができれば良いと思いますので、まずそこを作っていきたいです。</p> <p>今回、ペットがいるから逃げない方や、長年住んでいるから逃げたくないという方の話もありましたが、だからといって分かりましたと言って、亡くなられてしまうようなことは有ってはならないと思いますので、意識の改革もしていく必要があると思います。先生方に相談しながら進めたいと思います。</p>
教育長	<p>学校の施設が避難所という形になっていますが、学校という場所は子供達が安全に学べるようになっていきます。それがたまたま避難所に適しているということで今はそうなっていると思いますが、学校もかなり老朽化していて、地震対策はできていますが、建て直しを考えたときには、ぜひそういった水害に強いということも考える必要があります。</p> <p>例えば新潟の方では、2～3メートルの積雪を想定して、2階部分に玄関があるような校舎もあります。</p> <p>桐生で最も起こるリスクの高い災害は水害だと思いますので、できれば最初から水害を想定して、1階は倉庫で、子供達が学ぶ教室は2階以上とか、そういう建物の仕組みも子供達の安全を考えると必要です。今年来年というのではなく、もし今度建て替えをすることになった場合の話で、桐生の状況を考えたらそういうことも必要だと思います。そういう中で、避難所としても活用できれば良いと思います。</p>
市長	<p>学校を建てる時は国の要綱のようなものに倣う必要があると聞いたことがあります。聞いた話なので本当かどうか分かりませんが、窓は基本的に南向きに建てなければならないと決められているのですか。</p>
管理部長	<p>授業の時に手の影が邪魔にならないように左から光が入ってくるよう</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>になっていると学校の先生に教わったことはあります。</p>
新居委員	<p>そんな話を聞いたことはあります。</p>
市長	<p>それは国からの方針であって、地域に応じた環境というのも地方から出していく必要があると思います。教育行政の中で疑問に感じていることや改善して欲しいことがあれば、私に言ってもらえれば市長会を通して国に働きかけることもできると思います。</p> <p>例えば、公民館の話になりますが、図書館機能を持っている側の入口の補助は教育委員会からで、調理をする施設側の入口の補助は厚労省からで、両方の入口を作らないと両方から補助金をいただけないので、一つの公民館に二つの入口があるのですが、これはおかしい話だと思います。</p> <p>おかしいと思うところは現場、すなわち地方から発信して変えていかなければなりません。</p>
新居委員	<p>先月末の読売新聞の一面に、国が小中学校に対して生徒一人一人にパソコンやタブレットを一台ずつ配置するような話が出ていましたが、それには使うための環境も整える必要があります。Society5.0 ということが頻繁に取り沙汰されて、そういう方向に国が進んでいる中で、桐生の学校は少し遅れているのではという印象を受けます。</p> <p>先ほど出た校舎建て替えにも関連してくる話ですが、桐生は今後どうなっていくのでしょうか。</p>
市長	<p>まだ具体的な話は来ていません。</p>
学校教育課長	<p>ICT の関係への対応は年々必要になっていくことです。設備面については国から方針が出ましたので、今後それに従いながら進めていきたいと考えていますし、教職員がまずそれを使いこなせるように、先生方の研修というの、今も実施してはいますが、今後ますます進める必要があると思います。</p>
教育長	<p>設備も重要ですが、指導者の問題もあります。並行して進めないと 1 人 1 台になったときに宝の持ち腐れになってしまったらもったいないです。</p> <p>私も不得手で、そういう機器は使いこなせていません。ただそういう苦手な人たちも、これからは覚えていかなければならないです。ただ機器だけ揃えて、さあやってくださいと言っても、それは無理な話です。今、色々と研修の機会はもっていますので、まずは指導者が積極的に研修を受けて、修得が進めば、どんどん予算要求をして ICT 教育に必要な機材を備えてもらいたいと思っています。</p> <p>これからの社会では絶対に必要なもので、避けては通れませんので、研修も整備もなるべく早い時期にやっていかなければならないことは、誰もが共通で考えています。ぜひ先生方にもどんどん挑戦してもらえればと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
市長	<p>ありがとうございます。私も思っていることがいくつかあります。</p> <p>一つは図書館に関連する話で、市民読書条例みたいなものを作るというものです。図書館や読書に関する個別事業は既にブックスタート事業やおはなし会事業や図書館フェスティバルがありますが、それらをまとめて一本化しながら市民に周知するには、市民読書条例みたいなものを作るのが効果的で、そうすると図書館のあり方自体も変わってくると思います。</p> <p>ただ図書館が老朽化しているから建て直すという議論ではなくて、図書・読書は重要で大切なものだから、その拠点として図書館をこうしていこうという造り方がベストだと思います。学校の問題等も色々出てきますので一概に図書館だけというわけにはいきませんが、そういったことを考えたいと思っています。</p> <p>私が聞いている中では、桐生市立図書館に行かずに、みどり市の図書館や新里の図書館に行く人が多いようです。決して蔵書が少ないわけではないのですが、中が暗いとか、何かイメージ的な要因があって、行かなくなってしまっているのだと思います。</p> <p>このままでは勿体ないので、いろいろな形で図書館についても検討して行ければと思います。</p> <p>二つ目は、世界に羽ばたく人材の育成ということで、競技力の向上事業を進めるべきだと思います。人数が減って部活自体が無くなっているところもある中で、個人的な能力を伸ばすことももちろん大切ですが、9年後の2028年には群馬で2巡目の国体がありますので、これはもう今から取り組んでいかなければ厳しいと思います。子供のうちから、アスリート養成事業というわけではありませんが、競技力向上のためのプログラムについて、市でどんなことができるのか考えていった方が良いと思います。</p> <p>三つ目は、織都としての桐生を表す部分で、事業計画に織物体験事業ということで手織り体験と書いてありますが、やはり形に残さないと、ただ体験して終わるだけでは片手落ちだと思います。例えば、校旗、学校の旗を自分達が手で織って学校に残す。これは県では既にやっているのではないかと思います。そうやって自分たちの手で織って、校旗でも何でも、何か形として学校に残るようなものにして行かないと、織物体験だけではすぐ忘れてしまうところもあると思いますので、そういったところも考えて行ければと思います。</p> <p>教育大綱も引っ括めてこういう話を色々させていただく中で、大綱の大局的な部分を詰めて、個別の案件として事業内容が固まってくると思いますし、そうした教育大綱、実施計画ができれば、必ず良い方向に向かうと思いますので、ぜひこれからも色々ご検討いただければと思います。</p> <p>皆さんから他に何かございますか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
新居委員	もうすぐ（2020年4月から）成人年齢が18歳に引き下げられますが、成人式がどうなるのかということが、今の高校生や保護者の中ですごく話題になっています。
教育部長	今、担当課の中で協議をされていて、色々な方面に意見を聴いているところです。近いうちに方向性を出せると思います。
新居委員	色々決めなければならなかったりしますので、ぜひ早めに発表していただきたいです。実際、18歳で成人式をやられても、センター試験などもあって、忙しくて出ていられない高校生が多いです。保護者と本人からそういう声がたくさん聞こえてきます。
教育長	<p>来年の成人式運営委員会が既に始まっているのですが、その中で18歳を迎える人達に意見を聴いていて、今、青少年課の方で意見集約をしていますので、近々方向性を出すことを考えています。その件で教育委員会の方でも報告があると思います。</p> <p>また、これは教育委員会だけの問題では無く、市全体的な問題ですので、市長にも相談させていただきながら決めて行きます。</p>
市長	桐生の場合は着物産業があつて、振袖を着なくなってしまうという問題が地場産業の中でもあると思います。
教育長	なるべく早い時期に発表できるようにしたいと思います。

○その他 〈説明：企画課長〉

- ・ 次回の会議開催は現時点では未定。
- ・ 教育大綱の議論の中で教育長と市長から話があつた通り、意見交換の場を設ける場合やその他の緊急な協議事項が生じた場合には、随時、日程等の調整をさせていただく。

○閉会 〈司会：企画課長〉

（終了：午後4時42分）